



しがレクからのおたより

令和4年度 第1号 2022.5発行

滋賀県レクリエーション協会 事務局 発行

送信・返信先 〒525-0052 滋賀県草津市西矢倉 3-17-13 黒川かず江方



ご挨拶

昨年はコロナウイルスによって、レク協会のほとんどの事業が不開催という残念な結果となりました。家での生活が中心になる、このような時こそレクリエーションが大切であると常々思っておりましたが、いざとなると何もできない現実には立ちを覚えるしまつでした。人と会うことにブレーキがかかり、また逢ってもマスクをしなければならないという不自然さに戸惑ってしまうことがしばしばでした。マスクは顔の半分以上を隠し、相手の笑顔を見ることもできず、声は大きいとダメといわれては、レクを推進するにはほとんど不可能な状態の中、日々の生活で何もできないまま過ごしている毎日ですが、今年こそはと期待して、年度当初を迎えました。

会員の皆様も何かと新しい形でレクを進めていただきたいと思います。お願い申し上げます。

会長 前山 亨

令和4年度理事・評議員会終了

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、過去2年間は書面による決議となっていました。理事・評議員会でしたが、3年ぶりに対面にて実施することができました。当日は、理事及び評議員の出席は兼ねての参加を含め19名、委任状参加21名で、「令和3年度事業報告」「令和3年度決算報告」「令和4年度事業計画」「令和4年度予算」のすべてを原案通り可決いただきました。また、広報について実践的な研究を進めていただいている課程認定校の龍谷大学の学生7名も取材を兼ね会場に来ていただき、爽やかな雰囲気の中で会を進めることができました。

令和4年度事業の中では特に、昨年度まで滋賀県単独で実施できていなかったレク・インストラクター養成講習会を日レクとの共催（日レクの通信学習、県レクの集合学習）にて滋賀県単独で行うこと、制度が変わり廃止になった教員免許更新講習に代わり学校レクリエーションサポーター研修を実施することが大きな変更点となっています。

また、県レク大会は11月にフライングディスク協会との共催で実施することも決まり、本年度は何とか予定通り実施できることを願っています。

コロナ禍の中でも実施可能な方法が次第に見えるようになってきています。今年こそコロナを理由に中止という判断をするのではなく、世の中を明るくしていくためにもレクリエーション協会ができること、しなければならないことを考えすすめて行きたいと思っております。

皆さんの協力及び参画により協会運営をさらに進めていきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

理事長・事務局長 溝江 透

令和4年度第1回フォローアップセミナー

会員向けのセミナーを開催します。詳しくは同封のチラシを参照してください。

日時：令和 4年6月12日（日）

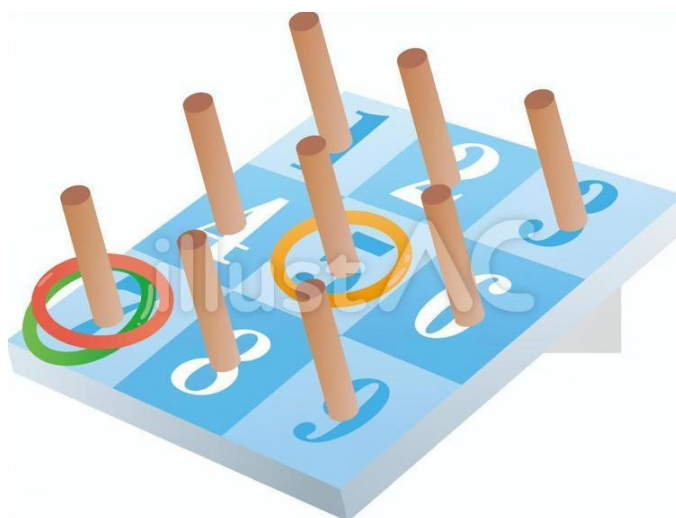
会場：長浜・伊香ツインアリーナ

内容：ニュースポーツ（ボッチャ、公式輪投げ、フロッカー）、モルック紹介

持ち物：体育館シューズ、筆記用具、昼食、保険証等

会費：無料（会員でない方は、3000円）

（西條 智晴）



広報部より

今年度は、広報部の試みとして新たな発信にチャレンジしています。過程認定校（龍谷大学瀬田学舎）の学生7名が実習としてコミュニティの発信について実践を通して学んでいきます。計画では、お便りの刷新やホームページのリニューアルを進めていきます。また、若者向けの情報発信としてSNSの活用もします。できるだけ多くの情報を発信していきたいと思っております。リクエストなどあれば、気軽にお問い合わせください。みなさんもフォローをお願いします。

Twitter ID : shiga_rec

Instagram ID : shiga_rec

facebook:ID 滋賀レク



インスタグラム



facebook

指導者養成講習会

滋賀県レクリエーション協会では、コロナ禍においてもレクリエーション指導者の養成を持続させるために、『通信学習』を導入した『レクリエーション・インストラクター』養成講座を開講します。「通信学習」では、テキストと動画教材を活用して、人々の心が元気になる心理的な裏付けとなる理論の学習、現場での動画視聴やちょっとした体験をとおした対象者レクリエーション支援の方法について理解を深めます。そして、「集合学習」では、通信学習を振り返りながら、実技体験や演習を行います。そのなかで、“心の仕組み”を根拠とした「支援技術の活用方法」や「信頼関係づくりの方法」、「対象者間のコミュニケーションを無理なく促進させるプログラミング」を習得します。「通信学習」と「集合学習」の組み合わせで、「一人ひとりの心に寄り添った心を元気にする支援」を実現させるスキルを身につけます。集合学習では、感染予防に配慮したレクリエーション活動の学習も盛り込み、現場での悩みに応えます。みなさまのお知り合いの方への周知について、ぜひご協力いただけますようお願い申し上げます。



新しい仲間 新指導者紹介

龍谷大学社会学部 コミュニティマネジメント学科卒業 出口 舞さん

私は誰かを喜ばせることが好きなことからレクリエーションインストラクター資格を取得しました。中学、高校と吹奏楽部に所属し、演奏を通して誰かに喜んでもらえることが自分の励みになっていたからです。大学でこの資格を知り、取得することで様々な場面で活かすことができると感じました。

授業の中でプレイスクールという場所で子どもたちのリーダーとしてレクリエーションを提供したり、子どもの活動をサポートする機会がありました。外で遊ぶことが好きな子どもが多い中、雨の日には退屈してしまう子どももいました。その時に何ができるのか、室内の中で安全に楽しく遊ぶにはどうしたらいいのかなど、考えました。「これをやってみよう」と声を掛けるとすぐに興味を持つ子と興味を持たない子がいました。しかし、遊んでいる姿が楽しそうに見えた時は後から「やっぱりやる」と参加してくれました。

子どもは何かする時に大人に手伝ってほしい性格や自分のちからで最後までやり遂げたい性格など様々でした。そんな十人十色の子どもの中で、その子どもに合わせた声のかけ方や遊び方が重要なことを学びました。また、自分自身、楽しんでもらった時の嬉しさを実感しました。

現在、仕事を通して活かせる場は少ないですが、一般の吹奏楽団で活動しています。演奏会など様々な年齢層が訪れる機会も多くあるため、演奏会の企画などで授業の学びを活かし、多くの人に笑顔を届けられたらいいなと思います。



多様なサービスに対応する TR

私は、アメリカの大学で TR（セラピューティック・レクリエーション）を学び、当時は、主に地域の障害児（者）のレクリエーションに興味を持っていました。日本に戻ってからしばらくは、京都市障害者スポーツセンターで働き、子どもからお年寄りまでを対象として仕事をしていました。その後、高齢者のデイサービスセンターを立ち上げることになり、高齢者専門でレクリエーションを実践することになりました。最初、私は高齢者だけということに躊躇していましたが、やり始めるとこんなに面白い分野はないと思えるようになりました。それから四半世紀ほどひたすらに高齢者の福祉、レクリエーションに打ち込んできましたが、4年前に突然、法人の人事異動で保育園の園長になってしまいました。さすがに100歳の人たちの仕事から0歳に変わるといのは、戸惑いました。しかし面白い発見もありました。

人生の最期まで生き残ることを目指して、レクリエーションを学び、考えることの大切さを実感しています。高齢者の人々の生き生きとした生活を支えるために、レクリエーションの重要性を改めて認識しています。これから、高齢者の生活を支えるために、レクリエーションの重要性を改めて認識しています。これから、高齢者の生活を支えるために、レクリエーションの重要性を改めて認識しています。

会員限定

必要と認められる場合は、ご支援をお願いします。

あると考えます。これからの TR の可能性を皆さんと考えていけたらと思います。

（理事：マーレー寛子）